

林陽寺報 さくら

<http://www.rinyouji.com/>

岐阜市岩田西 3-402 林陽寺 058-243-1380

ご先祖さまが 年に一度のお里帰り 家族そろっての おもてなし

お盆のいわれ

平成三十年も半年が過ぎ、お盆の季節となりました。家族揃って手を合わせ亡き人を偲びましょう。当寺におきましても、八月七日のお盆の法要（施食会）に始まり、二十四日の地藏盆までいろいろな行事を勤めます。どうぞお参りください。



毎年八（七）月十三日から十五日までは「お盆」です。ご先祖や亡くなった近き人の霊を供養しようと、遠くから故郷のお寺とお墓にお参りにいらつしゃいます。お盆は、変化する日本にあつて、昔からあまり変わらない宗教

行事です。

『孟蘭盆経』というお経によりまずと、お釈迦さまのお弟子で「神通力第一」といわれる目連さまが、ある日、亡くなった自分のお母さんがどうしているのだろうかとお母さんを通して、極楽浄土や天上界を探しましたが見つかりません。なんと、お母さまは餓鬼道に墮ちて、大変な苦しみに喘いでいました。食べ物や水を差し上げましたがあつというまに燃えつき、何も口に入らないのです。びっくりした目連さまは、お釈迦さまのところへとんで行き、どうしたらお母さまを救えるか相談しました。すると、お釈迦さまはこうおつしゃいました。

「目連よ、おまえのお母さんは決して悪い人じゃなかつた。とてもやさしい人だつた。しかし、ほかの子はどうでもよいという気持ちだつた、平等でなかつた。我が子だけを愛するという、深い愛欲にとりつかれ、余りにも自分勝手であつたため、餓鬼道に落ちてしまつたのだよ」

「ああ・・・」目連さまは、なげき悲しみました。



すると、お釈迦さまは、「救つてあげたければ、八（七）月十五日はお坊さんたちの長い修行の終わる日、その日にできる限りの飲食をさしあげ、亡き人に供養をしてあげることだ」とおつしゃいました。

その通りに、目連さまがすると、お母さんは餓鬼道の苦しみから救われ、極楽の世界に行かれたということです。お釈迦様は「丁寧に供養すれば、その功德力により多くのご先祖や無縁の人たちも苦しみから救われ、今生きている我々も幸福を得ることができるよう」とお説きになられたのです。

これが、お盆の始まりです。お盆の行事は、七月であつたり月遅れの八月



であったり。所によつてすこしずつ違いますが、ご先祖の霊をお迎えし、供養をいたしましょう。

自分の「いのち」を授けてくださったご先祖様を大切に、「いのちのありがたさ」を見つめ、そして、お釈迦さまがおっしゃった「平等」という言葉を、かみしめて日々精進しましょう。

写真は、お盆の時期の林陽寺の本堂の様子です。施食棚を出して供養します。各ご家庭でもお仏壇をお掃除し、お花や供物をお供えして、家族揃ってお寺やお墓にお詣りしましょう。

しだれ桜コンサート

満開のしだれ桜を眺めながら、ピアノ演奏を楽しむ

(ニュース 156より)

三月二十五日、岩田西にある八幡山林陽寺で第十二回しだれ桜コンサートとして「ウーノ」よりみちコンサート」が開催され、会場となった本堂には地域の人など二〇〇人以上の集まりました。コンサートでは、



岐阜市などで活躍するピアノパーformer、ウーノさんこと宇野正志さんが登場し、トイピアノで「春よ、こい」「春の海」「おもちゃの兵隊」などを演奏。最後にはピアノで

オリジナル曲「桜吹雪」を披露。舞い落ちる桜の花びらを華麗な演奏で表現し、皆さんは満開の桜を眺めながら演奏に聞き入っていました。ミニ法話では、岩水龍峰住職が「百尺竿頭進歩」という禅語を紹介して、「究めてもなお先に進むという気持ちが必要な時代です」と来場者らに話しかけていました。また三十一日には手作りの店がブースを並べる寺cafeも行われました。

境内清掃と消防訓練

六月三日、早朝より護持会の皆様方による境内清掃を行いました。毎年この時期にサクラの手入れ、サツキの選定、掃除等。特に今年は消防訓練時に防火器具に不都合が見つかりました。年一回の点検ですので訓練をしてよかったですと安堵しました。ご苦労様

でした。



子ども禅の集い

夏休みです。お寺で坐禅を体験し、しんぼう強い子になりましょう。

七月二十九日(日)午後
詳しくはお問い合わせください。
058-243-1380

